



防コミの歩き方



トラメガ作戦で津波から全員避難!

●住民主体で訓練や催しを実施

真陽地区防災福祉コミュニティは、阪神・淡路大震災で大きな被害を受けたJR新長田駅南側の本町筋や六間道、西神戸センター街等にぎやかな商店街に位置し、約3,600世帯が生活しています。

阪神・淡路大震災後間もない平成8年3月に防災福祉コミュニティ事業モデル地区として発足し、震災の教訓を風化させないため地域の防災拠点である真陽小学校と連携しながら住民主体で防災訓練や各種催しを企画・実践してまいりました。

●津波に対する備え

そんな中、東日本大震災が発生し、がぜん南海トラフ巨大地震による津波への備えが注目されました。

長田区真陽地区に面した海岸の一部が津波浸水想定地域に該当することから、地震のみならず津波に対する意識が高まり、平成25年3月に津波ハザードマップを、平成26年12月に地域おたすけガイドを作成しました。

また平成25年11月には地区住民の一斉津波避難訓練を実施しました。

このとき1台のトラメガを使った避難誘導訓練を、関西大学の近藤准教授の協力の下、大学生がサポートしておこないました。

これが「トラメガ作戦」の出発点となり、その後毎年、いろいろな工夫と検証を重ねながらトラメガを使った津波避難訓練を実施し、また、小学校や15の各自治会にトラメガを4台ずつ設置するとともに「トラメガ隊



員」を任命し、トラメガによる避難誘導を定着させました。

●最後に

毎年1月17日前後に真陽小学校で実施している総合防災訓練と津波避難訓練を、現在のコロナ禍の中でも感染防止の工夫をして、今後も着実に訓練を続け、地域の大人も子どもも互いに顔の見える関係を目指す活動で、地域の防災意識と防災力の向上につなげていきたいと思います。

(真陽地区防災福祉コミュニティ

本部長 中谷紹公)

